

# 進学通信

No. 67

学校説明会・文化祭・体育祭で

# わが子の志望校を決める!

### 紹介する学校

● 共学校 ● 男子校 ● 女子校

- アサンブション国際
- 香里スヴェール学院
- 神戸学院大学附属
- 常翔啓光学園
- 雲雀丘学園
- 帝塚山学院
- 四條畷学園
- 京都学園
- 関西大倉
- 三田学園
- 神戸国際
- 城星学園
- 常翔学園
- 金光八尾
- 園田学園
- 開明
- 花園
- 高槻
- 灘

巻頭カラー 入学式レポート

教・育・問・答

校長 和田 孫博 先生

[灘中学校・高等学校]

超絶テク満載!

算太・数子の算数教室

意外に知らない?!

# 中学受験のキホン



公式HP「shigaku.net」  
www.shigaku.net



公式Facebookページ公開中!

表紙の写真: アサンブション国際

# アサンプシオン国際



## 『アサンプシオン国際』として 新たな歴史の幕開け

今年度より聖母被昇天学院から『アサンプシオン国際』へと校名変更し『21世紀型教育』を展開する男女共学校として生まれ変わった同校。2017年4月7日、その記念すべき入学式が神聖な空気に満ちた聖堂にて執り行われました。

同校の入学式は『祈りの集い』とも呼ばれます。入堂する新入生を包み込むようにインドベルの美しい音色が響き渡り、開式宣言後には、聖歌斉唱、聖歌朗読が行われました。

「挑戦するたくましさ、寛容な心、英語力を培ってほしい」と語った江川昭夫校長。その思いに呼応するように、「どのような困難も乗り越えたい」「アサンプシオン・ネットワークの30カ国以上の姉妹校との交流を通じて、認め合い高め合う関係を築きたい」と誓った中高の新生代表。二人ひとりの輝かしい未来を予感させる、始まりの日となりました。





# 注目の学校

アサンプション  
国際

## 『21世紀型教育』で グローバル社会を生き抜く 多様性に富む人材を育成

2017年度より男女共学化に踏み切り、校名を『聖母被昇天学院』から『アサンプション国際』に変更。コースも『アサンプション・イングリッシュ(AE)』と、『アサンプション・グローバル(AG)』に再編し、『21世紀型教育』に取り組む同校。この大きな学校改革について、江川昭夫校長は次のように話します。

『21世紀型教育』の目的はグローバル人材を育成すること。多様化するグローバル社会では国籍・年齢・性別の垣根を越えた、多様な価値観を養い、自分の思いを自分の言葉で伝えられる人物を育みたいという願いから男女共学化に踏み切りました。本校では伝統的にグローバル教育を行ってきましたが、『21世紀型教育』は、これまでの取り組みをよりブラッシュアップさせていきます」

組みから成り立っています。1つ目は『英語イマージョン教育』。これは英語以外の教科を英語で学ぶというものです。ネイティブ教員×日本語教員のチームティーチングで授業が進められ、英語しか使えない環境を作ることで、できるだけ日本語を使わないコミュニケーションを試み、英語に「どっぷりつかる」環境に身を置くのです。

『ネイティブ教員は、生徒に呼びかけるように問いかけますし、その内容も違いますね。決められた答えに導くのではなく、一人ひとりがどのような考え方をするのか、会話を膨らませます」

2つ目は『PBL(課題解決)型授業』の推進。同校では、これをすべての授業で目指しています。その中心となっているのが『探究科』の授業です。知識を詰め込む、という受け身の学力・知性で

はなく、積極的にグループワークやディスカッションなどの主体的・対話的な深い学びで、自分の頭で考え、課題を見つけ解決していく『課題解決力』と『新たなアイデアを創造する力』で、「正解のない問いに挑戦する力」を育みます。

そして3つ目は、これらの教育を充実させ、可能性を広げていく『ICTツール』の活用で、校内にはタブレット、電子黒板などのICT環境が整備されています。イマージョン教育とPBL(課題解決)型授業で身につけた英語力や思考力、課題解決力、創造力をもって、「情報収集力」と、意見の「発信力」を高めていくのです。

『教員の会議などもペーパーレスになりました。生徒が学ぶ前にまず、自分たちがしなければいけないからです。議題もヘッドラインは英語にするようにしています」

また、グローバル教育として、希望者を対象に、アメリカやフィリピン、フランス、オーストラリアなどへの留学プログラムを用意しています。

「ただ、まずは校内で国際交流をしてほしいですね。カトリック校で世界30カ国以上に姉妹校がある本校は国際交流がさかんで、常にフランスやフィリピンなどさまざまな国からの修学旅行生や留学生が来校しており、校内はいろいろな言語が飛び交っていて国際色が豊富です。生徒も積極的にコミュニケーションを図っています」

「学校改革で、教員の意識も変わってきました。今は日本語教員、ネイティブ教員、全教職員が丸となって、より良い学校にしていこうという気概に満ちています」(江川昭夫校長)

## 『21世紀型教育』が始動!

### 数学・理科・音楽も英語で学ぶ『英語イマージョン教育』

『英語イマージョン教育』は、英語以外の教科を英語で学びます。「音楽では歌を歌って英語の発音に親しんだり、数学では写真を見ながら数の概念について学びます。英語で学び英語で考えることで、日本語で思考するときとは違った視点を持つことができます」(江川校長)

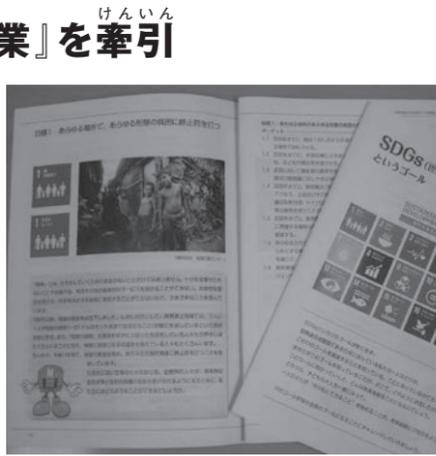
英語イマージョン授業では、ネイティブ教員を日本語教員がサポート。生徒たちは教室にあふれる英語のシャワーに物おじせず、積極的に授業に参加していました。理解不足の生徒には身振り手振りや、わかりやすい単語で説明。日本語は最終手段です。



### 探究科の科目設定は『PBL(課題解決)型授業』を牽引

教科の枠組みを超えた横断的な学びを実践するため、中高ともに『探究科』を科目として設置。現在は国連が掲げる『SDGs(世界を変えるための17の目標)』に沿って、貧困や飢餓、環境、産業などをテーマにプレゼンテーションやディスカッション、ディベートなどで、世界が直面している様々な問題を解決することを目標にしています。

また、不定期ながら、江川校長が講師となり、希望者を対象に、与えられたテーマに沿って考えるグループワーク『校長哲学講座』が行われています。「たとえばフィリピンにあるスラム街・スモーキーマウンテンの写真を見ながら討論し、英語で発表。厳しい環境の中で、けんめいに生きる子どもたちを救うには何をすべきかを考えます。最後に出てきた言葉は“世界を変えることは視点を変えること”です。これこそ本校が目指す21世紀型教育の根幹となる考え方なのです」(江川校長)



### ICTツールを フレキシブルに活用

21世紀型教育では、ICTツールの活用も必要となっています。1人1台タブレット端末を保有し、情報の収集・発信ができるように指導しています。これらの教育の実践のために『フューチャールーム』を新設。天井から床まで画像や映像が映し出されたり、机や椅子も自由に移動できるなど、グループワークやプレゼンテーションなどのPBL(課題解決)型授業に最適な学習環境が整えられています。



### コース制を新設

『AEコース』は、英語を重点的に強化するコースで、英数理+総合学習で英語イマージョン教育を実施し、高度な英語力の育成を目指しています。『AGコース』は全教科でPBL(課題解決)型、探究型授業を行い、「主体的に対話的な深い学び」へと導きます。ただどちらのコースにおいても、英語イマージョン教育、PBL(課題解決)型授業を推進しており、違いはどちらに重点が置かれているかということです。

